2023年7月16日　月例会　午前の部

**「無私は神」 (パート1)**

**スワーミー・メーダサーナンダ**

私たちは聖典の神の定義を知っています。神は遍在、全知、全能です。スワーミージーが神について「無私は神」と定義したことは特異なことです。私たちは無私について知っていますし、私たちの多くは神についてある程度の知識がありますが、 はたしてこの二つをどのように結びつければいいのでしょうか？　多くの人はそのことで少し混乱するかもしれません。日本語では利己的でないことを、「私ではない」という意味の「無私」という言葉であらわします。つまり、「Unselfishness is God」の日本語訳は「無私は神です」となります。今日はこのことについて、プラーナの中の聖者ダディーチの物語の説明から始めたいと思います。ダディーチの名前を聞いたことがある人もたくさんいると思いますが、彼は最高の自己犠牲の例です。ストーリーは次のとおりです。

悪魔と神々の間で時折争いが起きていたころのこと。神々が勝つことも、悪魔が勝つこともあった。ある時、悪魔が神々を倒し、天国の支配者となった。悪魔の王の名はヴリトラースラ。神々は天国から追放されたとき、ブラフマー、ヴィシュヌ、マヘーシュワラに助けを求めた。すると、「偉大な聖者の骸骨で作った武器を使えば、ヴリトラースラを殺すことができる」と教えられた。神々は、その目的のために命を捧げてくれる聖者を探し始めた。しかし、誰も同意しなかった。最後に、ダディーチと呼ばれる聖者が、偉大な目的のために自分の骨を寄付することに同意した。彼はサマーディを通して肉体を去り、その骨から「ヴァジュラ（雷電）」という名の武器が作られた。そして最終的にその武器でヴリトラースラを殺し、悪魔たちを打ち破り 、神々は天国を取り戻した。これは、無私の最高の形を示すプラーナの一話です。

さて、まず利己的(selfishness)とは何か、その印とはどういうものであるか、を理解しましょう。利己的の中心となるものは「私自身」と「私の家族」です。小文字のsで始まる「the self」はアートマンを示すのではなく、体と心を指します。利己的の印：自分の時間、エネルギー、お金のすべてを自分自身と自分の家族のため使えば、その人は利己的であると言えます。利己的な人の最大の関心事は、自分と家族がどのようにして豊かに暮らすかということです。その人は他者の幸福には全く関心がありません。そのような人は他者からの助けは期待しても、進んで他者を助けようとはしません。たとえ多くの富や資産を持っていたとしても、他者に分けたがりません。彼らは食べ物を無駄にしても気にしないのに、飢えた人には食べ物を与えません。洋服は時代遅れで使えなくなるまで家に置いておきますが、それを困っている人に寄付しようとは考えません。彼らの全関心は、自らの利己的な目的が果たせるように、できるだけ多く貯蓄することなのです。

残念なことに、すべての存在の中で、いわゆる人間が最も利己的です。考えてみてください – 何頭の魚、鶏、牛、豚など、が人間に食べられるために毎日命を犠牲にしていることでしょう。それは厳然たる事実です。さて、もし一匹のトラが私たちのところに来て、「腹が減ったのでお前の命をくれ」と言ったとしたら、私たちは「はい、どうぞ」と言うでしょうか？　次に木について考えて見ましょう。木は、果物、花、野菜などを与えてくれます。木は木製品を使いますか？　マンゴーの木は、真夜中にお腹が空いて目が覚めたときにマンゴーの実を食べるでしょうか？

それでも、非常に非利己的な人々の例もあります。たとえば、ベンガルにはイーシュワラ・チャンドラ ヴィディヤー・シャーゴルという著名な人物がいました。ヴィディヤー・シャーゴルとは「知識の大海」という意味です。彼は「慈悲の大海」を意味するダヤー・シャーゴルとしても知られていました。『シュリー・ラーマクリシュナの福音』には、シュリー・ラーマクリシュナとヴィディヤー・シャーゴルとのおもしろい深遠な会話が記されています。残念なことに、そのように非利己的な人はあまりいません。

さて、利己的になるとどのような結果が生じるでしょうか？ 視野がとても狭く、自分自身と自分の家族に非常に執着するようになります。さらに、執着は最終的には欲求不満を生みます。なぜなら、家族を喜ばせるために最善を尽くしても、それはほとんど不可能なことだと気づくからです。それだけでなく、彼らは、家族との別離、死別の恐怖に苦しみ、そのことがストレスの原因となり、心と体の健康に影響を及ぼします。したがって、利己的であることの結果は、非常に暗いものです。

当然のことながら、誰もそのような結果を望んでいませんね。では、どのように改善すればいいでしょうか？

最初に、自分の利己的のレベルがどれくらいか、ということを意識してください。時間、エネルギー、お金を自分自身のためにはどれくらい、他者のためにはどれくらい費やしているでしょうか？　このことを内省し、自分自身で答えを見つけてください。

二つ目に大事なことは、無私を実践する、ということです。今日の話の中で常に強調することは、「実践」です。

「どうして人は利己的になるのだろう？」というもっともな疑問があります。その基本的な理由は何でしょうか？　答えは、「それは自分を守る、という自然法則だから」です。また、「創造をつづけたい」という神の目的のために尽くしている、という一面もあります。もしも私たちが、神の創造物である自分の家族を守ろうとしなければ、創造は絶対に続きません。　しかしそれと同時に、ギブアンドテイクで創造は続く、ということも真実です。反対に、受け取る（テイク）だけで全く与える（ギブ）ことをしなければ、世界は続かないでしょう。

市場であるものを買うとき、私たちは代金を支払い、商品を受け取ります。しかし、じっくりと考えたことがありますか、どれほどの人々や道具がその商品を準備するのに関わっているのかを？ 衣服、家、家具、食べ物などを準備するために、陰では実に多くの人々が時間と労力を費やしています。

このことに関連する、アルバート・アインシュタインの有名な言葉があります「私は一日に百回は自分に次のことを言い聞かせている。私の内的外的生活すべては、生者死者を含めて何千人もの人々のおかげである。私はこれまでに受け取り、これから受け取るのと同じ分のお返しができるように、全力で努力しなければならない、と」。もし私たちがこの言葉を熟考すれば、人生のバランスを保つためには、お返しすることが必要であると気づくでしょう。

ここで自然の法則を霊的な面から考えてみましょう。信者は、自分が選んだ神が、生物、無生物を含む周囲のあらゆるものに宿っていると感じます。

ヤトラ ジヴァ タトラ シヴァ ジャレ クリシュナ スターレ クリシュナ、クリシュナ パルヴァトマスタケ

神はすべてに浸透している、つまり遍在である。神は、苦しんでいる人、病気の人、問題を抱えている人の中におられる。

これこそが、信者としての私たちが、そのような人びとに仕えなければならない理由です。スワーミージーは「シヴァ　ギャネ　ジヴァ　セヴァ（人をシヴァ神と思って奉仕せよ）」というアイデアを引用し、また、「ダリドラ ナーラーヤン、ムルク ナーラーヤン（貧しい人も無学な人も神としてあがめるべきである）」という言葉を作りました。このように、信者としての観点から、人は見返りを期待することなく、周囲の人々に奉仕する必要があるのです。神の絵や神像の中に、私たちは神の存在を想像しなければなりません。しかし、神の存在は、プラッテャクシャ・デーヴァタ[見える神]である人類の中に、明らかです。

では、ギャーナ・ヨーガを実践している霊的求道者の見方はどうでしょうか？　彼はすべての人々をあらゆるところに遍在するアートマンであると考えようとします。私の中にあるアートマンは、他者の中にも存在します。つまり、私たちが他者に奉仕するということは、自分自身に奉仕することになるのです。『バガヴァッド・ギーター』には次のような一節があります。

アトマウパンミェーナ サルヴァットラ サマム パッシヤティ ヨールジュナ /

スカン　ヴァー　ヤディ　ヴァー　ドゥッカン　サ　ヨーギー　パラモー　マタハ // 6.32

すべては我が身の上のこととして、他者の悲喜をわが悲喜なりと考え、あらゆる生物を自己と等しく見る人こそ、最高のヨーギーなのだ。アルジュナよ！

つまり、ヨーギーが他者の幸福と不幸を自分のものとして見るとき、そのヨーギーは最高の状態に達したと言われる、ということです。だから、ギャーニーはあらゆる存在の中に同じアートマンを見出し、他者に対して深い慈悲心を持つのです。すべての存在の中に同じアートマンを見ることができるヨーギーは、この感情を他者に奉仕するという行為に進化させます。なぜなら、他者の苦しみを感じるだけでその苦しみを軽減しようとしないのでは、不十分だからです。このことから、悟った魂には、他者に奉仕したい、慈悲の心で他者を導きたい、以外の願望はないといわれています。その最高の例はゴータマ・ブッダです。

カルマ・ヨーガの講義の中で、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはこう言いました、「無私であることはより多くの益をもたらす。ただ私たちにはそれを実践する忍耐力がないだけだ」。なぜスワーミージーはそう言ったのでしょうか？　なぜなら、無私であることの結果が実を結ぶには時間がかかるからです。すぐに手に入れることはできません。そのために忍耐が必要なのです。無私を実践するとどんな結果が得られるでしょうか？　心の平安、内なる喜びと静けさ、ストレスや不安からの解放などです。

さらに、無私の実践の最大の結果は、エゴを取り除くことができることです。利己的の中心は体と心に関係する私たちのエゴです。このエゴは、神を悟ることの最大の障害です。『シュリー・ラーマクリシュナの福音』の中には「このエゴを取り除きなさい」というアドバイスが何度も出てきます。 このエゴは、時間と場所によって条件付けられた体と心を中心としています。私たちはそれを、より高等なエゴ、つまりアートマンに置き換えなければなりません。無私を実践すればするほど、私たちの心は未熟なエゴから解放され、心は清らかになります。きれいな鏡に太陽がくっきりと反射されるように、純粋な心にだけアートマンは反射されます。しかし、これらはすべて、長期間にわたって継続的に実践することによってのみ到達することができることです。忍耐が必要です。心を無私にする訓練を忍耐強く実践すれば、大きな結果が得られるでしょう。

それでは、皆さんに質問を一つしてこのセッションを終わりたいと思います。二種類のタイプの信者がいます。一つ目のタイプは、霊的実践に非常に誠実で、定期的に聖地を訪れますが、非常に利己的です。たとえ誰かが苦しんでいるのを見たとしても、その人のために奉仕しようとしません。もう一つのタイプの信者は、あまり実践をしませんが、とても非利己的です。その信者は自分が払わなければならない代償のことなど気にかけず、他者に奉仕するために全力を尽くします。質問は、どちらのタイプの信者が優れているとみなされるか、です。

（パート１終わり）